

北元 健 氏の学位審査結果の要旨

主査：日下 博文

副査：浅井 昭雄、鋤方 安行

2006年から7年間に、関西医科大学総合医療センターに救急搬送された一酸化炭素中毒患者81人を対象に、間歇型一酸化炭素中毒群、未発症群の二つに分類し、比較検討をした。単変量解析では、一酸化炭素の曝露時間、意識レベルの低下、血清CK値の上昇、褥瘡の存在、頭部画像検査での大脳基底核・大脳白質の異常所見、練炭曝露による一酸化炭素中毒の項目で、両群間の有意差を認めた。このうち褥瘡と血清CK値の上昇は、多変量解析でも有意差を認めた。

血清CK値の上昇は、低酸素血症や一酸化炭素を介した筋細胞障害、昏睡により長時間の同一姿勢による筋挫滅、電解質異常に伴う横紋筋融解症などの複合的な要因が重なっていると考えた。褥瘡の存在は、長時間の一酸化炭素の曝露を反映しているものと考えた。発症リスクに基づいて一酸化炭素中毒の治療を行うことは、間歇型発症のリスクを減弱し、ひいては予防につながる可能性がある。実地臨床上、極めて有用な情報を確認しており、学位に値する。